

平和という言葉を聞くと身構える人が少なくありません。何やら政治的にやっかいな話題が始まりそうだと考えるのでしょうか。あるいは、端からそんな言葉ははじめに取れない、と言う人もいます。地に足の着かない理想論だから、ということのようです。逆にまた、平和ははじめに深刻な問題なのだから楽しんで語ってはいけない、と言う人もいます。平和は語ったり研究したりするものではなく、つくるものだ、という考え方もあります。どれにもそれぞれ一理あるでしょう。平和の意味や平和をつくる方法をめぐって深刻な対立が生じ、社会関係がとげとげしくなってしまう例は、日本でもありますし、ほかの国でもあります。誰もが平和を望むのに、いつもそれを壊してしまいう人間たちが現れ、どれだけ努力すれば永続的な平和が得られるのかというやりきれない思いを、人類は何度も味わわされてきました。

また平和は、まじめで深刻な問題でもあるでしょう。特に、平和そのものというより、平和を奪われた人々や、平和が失われた状況というものは、部外者が口をはさめないほど深刻な場合があるのです。そういったことを知りつつ、それでもやはり、平和について考えることは必要だし、考えがいのあることなのだ、と思います。もし誰もが平和を望むのなら、ますますよく考えなければなりません。同時に平和について深く考えるということは、歴史に参加するということでもありますから、考えがいを強く感じることもなるのです。限られた紙幅の中で、何について語ろうかとあれこれ考えました。その結果、選んだのが、この本の内容です。立場が異なっても共に考えることのできる問題は何か、それを基本にすえて組み立ててみたらこういうものになりました。ほかにも取り上げるべき大切な問題はあります。しかし、とりあえずは平和の問題がとて間口の広いものであること、そのどれもがあきらめて放りだしてはならないものであること、必ずしも私たちが互いに分裂せずに「共に考える」ことのできる問題は数多くあること——そういうことだけでも確認できれば、と考えました。

(最上敏樹『いま平和とは一人権と人道をめぐる9話』より)

語注

- ・理想論…理想的で望ましいが非現実的である論。
- ・永続的…物事がながく続くこと。ながつづき。
- ・間口…事業や研究の領域。

《設問》

問一 この文章は、「はじめに」という前書きの一部です。この文章を参考に後の語群の語句をすべて用いて、筆者がどういう姿勢で「平和」という問題を考えようとしているのかを八十字程度で簡潔に説明しなさい。(ただし、指定された語句はどのような順序で用いてもかまわないものとする)

- ・立場 ・考え方 ・間口 ・共に ・深刻な問題

問二 この文章の中で、筆者が考える人々の「平和」という問題に対する態度が4種類あげられています。その態度を「く」と考える人」という形式で簡潔に説明しなさい。

次の文章を読んであとの設問に答えなさい。

「こまでのお話

ある日、町の図書館にライオンがやってきました。図書館員のマクビーさんは、驚いて館長のメリウエザーさんに報告しましたが、規則を破っていないければ問題ないと言われます。それからライオンは、ほえることなく、図書館の仕事を進んで手伝うようになりました。図書館に来る人たちもライオンをこわがらなくなりました。

あるひ、ライオンは、ひやつかじてんのほこりをすっかりはらい、ふうとうをぜんぶなめ、ちいさなこどもたちのおてつだいもすませると、まだなにかようじがあるかもしれないとおもって、メリウエザーさんのへやまであるいていききました。おはなしがはじまるまで、まだしばらくじかんがありました。

「こんには、ライオンさん」

と、メリウエザーさんはいいました。

「てつだってほしいことがありますよ。ほんをいっさつ、かしたしカウンターへはこんでほしいの。いま、そのほんをたなからおろしますから」

そういうと、メリウエザーさんはふみだいのり、いちばんたかいたなにてをのぼしました。でも、もうすこしのところでほんにはとどきません。そこで、つまさきだちになつてせのびしました。

「もう……ちよつと……」

メリウエザーさんは、おもいきりてをのぼしました。そして……たおれてしまいました。

「いたた……」

メリウエザーさんは、おきあがることもできずに、「マクビーさん！マクビーさん！」とよびました。

でも、マクビーさんは、かしたしカウンターにいたので、きこえませんでした。

「ライオンさん、マクビーさんをよんできてくださらないかしら」と、メリウエザーさんはいいました。

ライオンは、ろうかをはしっていききました。

「はしって、いけません！」

とメリウエザーさんはこえをかけました。

ライオンは、かしたしカウンターにおおきなまえあしをかけて、マクビーさんを見つめました。

「どいてくださいよ、いそがしいんだから」

と、マクビーさんはいいました。

ライオンは、メリウエザーさんのへやのほうにはなをむけて、くいんくいんとなきました。

ところが、マクビーさんはしらんかおです。

こうなつたら、ライオンにできることは、たったひとつしかありません。ライオンは、マクビーさんをじつとみつめると、くちをおおきくあげました。そして、1いままで

きたうちで、いちばんおおきなこえでほえました。マクビーさんは、びつくりしていいました。

「しずかにしなきゃ、いけないんだぞ！きまりをまもつてないじゃないか！」

マクビーさんは、はしらないようにきをつけながら、いそいでへやをでていききました。ライオンは、ついていきませんでした。きまりをまもれなかつたのですから、しかたありません。2ライオンは、うなだれてぐちへむかいました。マクビーさんは、それにきづきませんでした。

「メリウエザーかんちよう！」

とマクビーさんは、あるきながらおおごえでいいました。

「かんちよう！ライオンがきまりをまもつてません！きまりをまもつてません！」

マクビーさんは、メリウエザーさんのへやにとびこみました。ところが、いつものつくえにすがたがみえませんでした。ところが、いつものつくえでメリウエザーさんのこえがします。ゆかにたおれているではありませんか。

「たまには、ちゃんとしたわけがあつて、きまりをまもれないことだつてあるんです。いくらとしよかんのきまりでもね。さあ、おいしやさんをよんできてくれませんか。

うでのほねがおれてしまったようです」

マクビーさんは、あわてて、おいしやさんをよびにかけだしていききました。

「はしってはいけません！」

と、メリウエザーさんがこえをかけました。

つぎのひのとしよかんは、いつもとどこかちがつていました。

メリウエザーさんは、ひだりてにギプスをはめています。

おいしやさんからは、あまりはたらきすぎないように、といわれていました。

「ライオンがてつだつてくれるといいのに」

と、メリウエザーさんはおもいました。でも、けさはライオンのすがたがみえません。

3じになると、メリウエザーさんは、えほんのへやまでいってみました。おねえさんが、こどもたちにおはなしをよみはじめたところでした。けれども、ライオンはいませんでした。

としよかんにきたひとたちは、ほんをさがしたり、コンピュータでしらべたりしながら、3いつものように、あのおおきなふさふさのかおをみたいものだとおもっていました。でも、ライオンはどうとうやってきませんでした。つぎのひも、ライオンはきませんでした。そして、そのつぎのひも。

(作／ミシェル・ヌードセン 訳／福本友美子)

『としよかんライオン』より)

《設問》

問一 この文章から読み取れるメリウエザーさんとライオンの性格を三十五字以内で簡潔に書きなさい。

問二 — 線部1「いままでいきたくちで、いちばんおおきいこえでほえました」とありますが、このときのライオンの気持ちを三十字程度で具体的に書きなさい。

問三 — 線部2「ライオンは、うなだれてぐちにむかいました」とありますが、このときのライオンの気持ちを三十字程度で具体的に説明しなさい。

問四 — 線部3「いつものように、あのおおきなふさふさのかおをみたいものだとおもっていました」とありますが、図書館に来る人たちにとってライオンはどんな存在と言えますか。三十字程度で具体的に書きなさい。

問五 メリウエザーさんは、図書館にやってくるライオンを好意的に思っています。そのことがよくわかるメリウエザーさんの言葉を文中から四十字以内でさがし、はじめとおわりの五字を書き抜いて答えなさい。

※すべての問題の制限字数には句読点・符号を含むものとする。